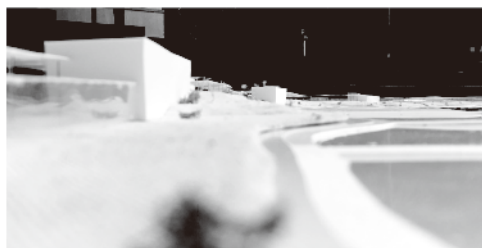


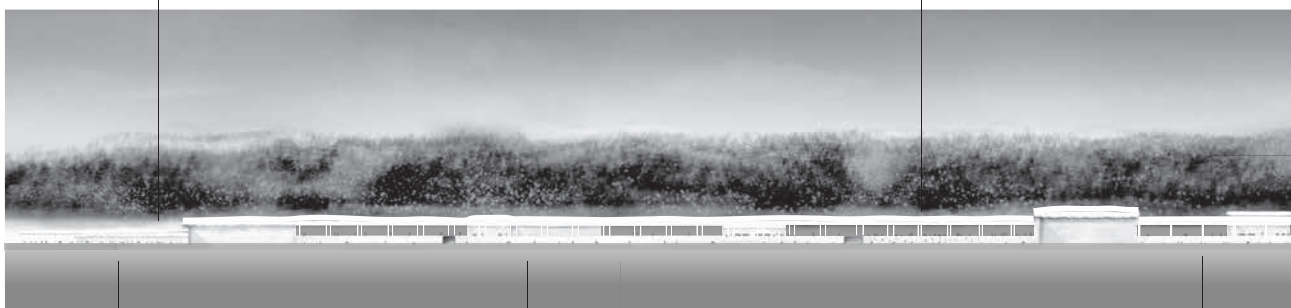
越後の雄大な盆地、地形が織りなす敵たる豪雪、遥か先まで広がる魚沼の田園風景——。もう一度、大地を受け入れ、雪原の中で緩やかに生活が展開する風景を臨む。取り残された未完のバイパスが、街の生活の中心となる広大な地形となり、四季の様相の変化とともに、活動の風景として新たに大地の連続の中に刻まれる。それは、自然と人間がつくりだした多くの街の歴史を乗り越えた、その先の地域の姿へと向かう。



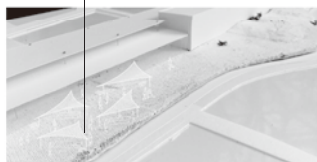
ヒトツ屋根の下で過ごす



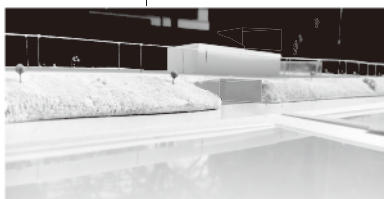
遠くに続く、水田と建築の風景



晴れた日は、田園風景の中で市場が開く



人々の活動と自然が同時に風景となる



屋根をつなぐ居間のような空間



敷地は、国道 17 号の迂回ルートとして現在計画され続けている、「六日町バイパス」上である。新潟県南魚沼市に位置する六日町は、盆地に挟まれた豊かな風景の中で、近代開発とともに大規模なインフラ整備が行われた。平成 5 年に開始したバイパス計画は、開発予定地における中腹部から施行され始めたが、その両端がつながる計画は先の見えない未来のこととなっている。



平成 19 年 11 月開通

平成 21 年 8 月延長、開通

平成 27 年 10 月延長、開通

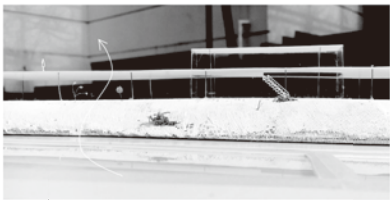
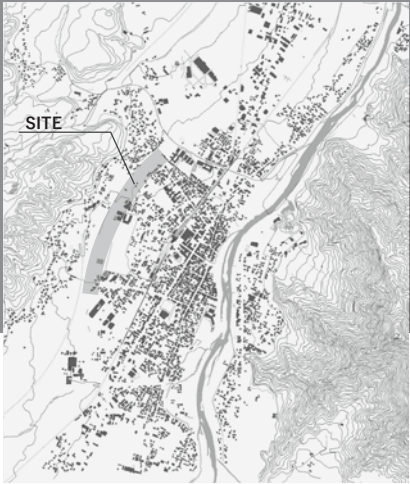
現在。  
工事の収束の目処は立っていない。  
工事の終わりが見えない。完成が見えない。

バイパスは、近代の遺構となる。  
風景の一部。景観の一部。人の生活の一部。  
などという場所だ。ただ自然とその遺構は存在。

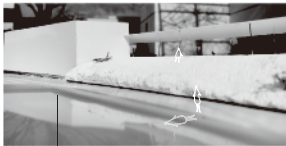
大規模な敷地を繋ぎ、より機能的な交通網を計画することで、あらゆる産業の活性化を促進。

工事の終わりが見えない。完成が見えない。

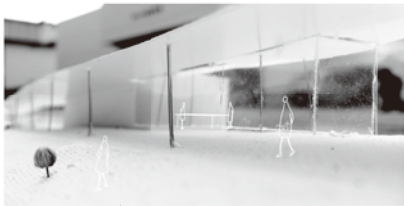
風景の一部。景観の一部。人の生活の一部。  
などという場所だ。ただ自然とその遺構は存在。



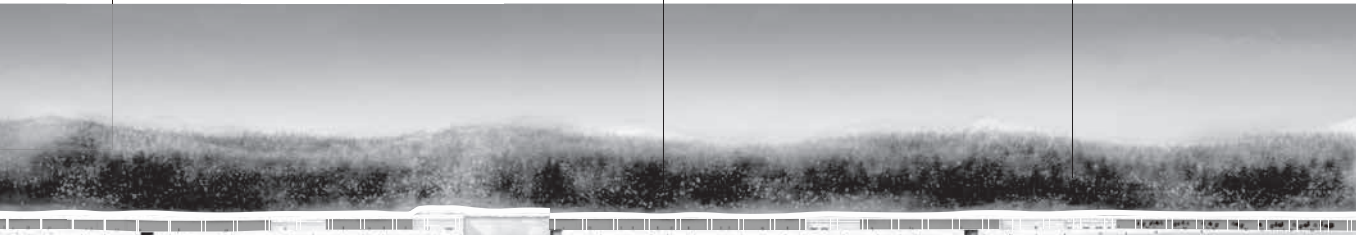
空間が連続し、風景が上昇する



日差しと日陰が、暮らしをまたぐ

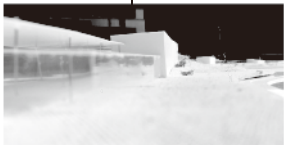


生活の一部が風景の中で  
行われる

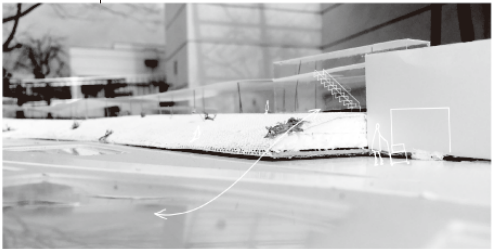


Elevation 1:1150

バイパスのゆるやかな丘が  
人々の居場所になる



建築と水田が、ゆるやかに続く



近所で集まる庭のような空間





Green area transition

元来稲作に適した土壌であった六日町では、明治維新以降急速に稲作産業が発展していった。その後、大型事業化や農家の宅地転用などによってその景観が徐々に強大なインフラの風景に変貌していった。

歴史の積み重ねの中に、私たちは今存在しているのである。

- 1878 泉田橋 架橋
- 1891 魚野川大洪水
- 1899 県道8ヶ線 竣工
- 1919 魚沼自動車商会設立、貨物旅客輸送開始
- 1921 西泉田破堤大洪水、全利浸水
- 1923 上越線 六日町駅 開通
- 1924 魚野川下り舟廃止
- 1958 三国川 永久橋 完成
- 1962 坂戸 永久橋 完成
- 1970 国道291号線 開通
- 1975 国道25号線バイパス開通
- 1981 商店街にアーケード完成
- 1997 ほくほく線 開業
- 2007 六日町バイパス 開通



街を南北に縦断する河川魚野川が氾濫し、近隣の商店街や家屋が大規模な浸水被害に招かれた。



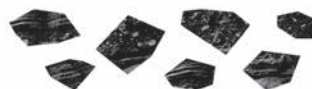
魚野川を利用した舟運の船着場の一つが六日町に存在した。上越線の開通により、その光景は無くなった。



幹線道路が次々に整備され、交通の便が大幅に発展した。しかし一方で、豊かな田園風景が失われたり、各地で都市の災害対策問題が浮上している。

FUTURE

PRESENT



PASS

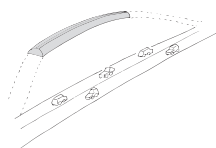




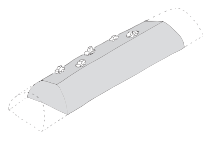


車道という機能を負担する代わりに  
常に変化することのない風景を作り出している。

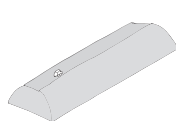
しかしこの地域では、  
**変化する風景こそが**  
本当は一番重要な価値なのではないか。



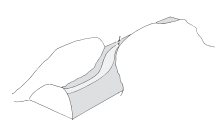
工事が進展せず、取り残されたバイパス



想定されていた利便性が消失



利用率が低迷し、空き地と化していく



新たに人のための広場として作り変える



遺構と化したバイパスは、人の手を離れ  
大地へ再び還元され  
新たな風景を作り出そうとしている



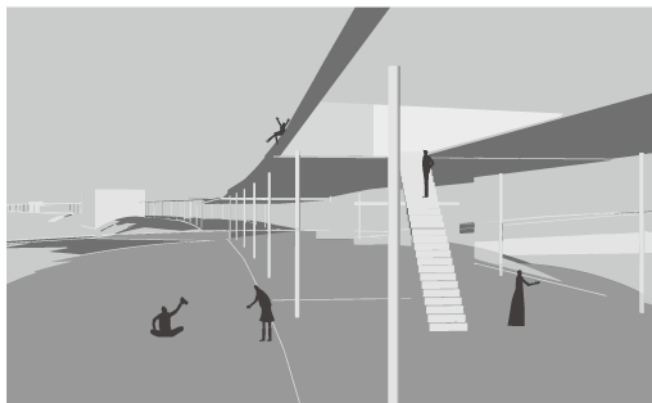
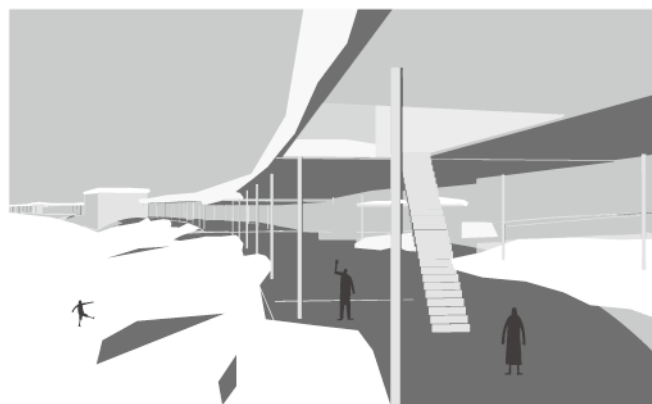
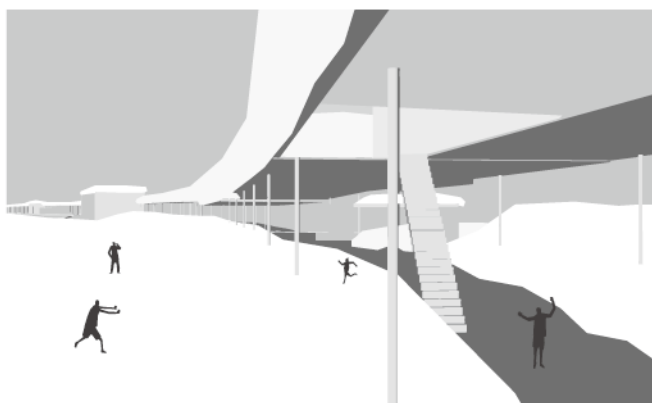
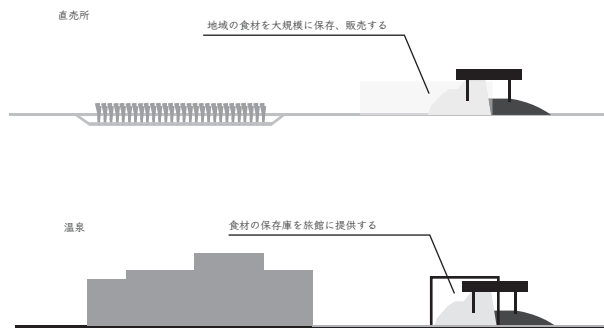
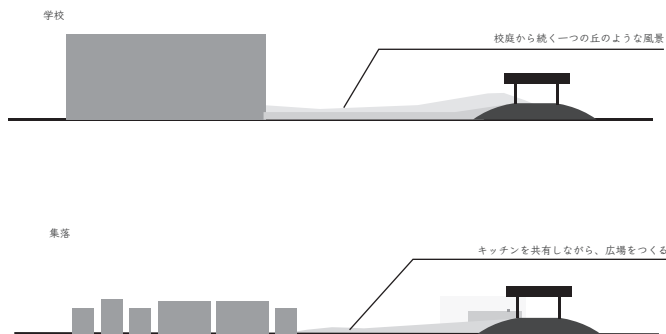
新たに地形として浮き上がるバイパスに住み着く。





人の活動と自然環境が、同時に風景として現れる。

■ 1.5kmを横断する建築が、街のそれぞれに呼応する



■ 四季に応じて、地形や建築、人々の生活が変化する

■遠景で、様相が変化する

